

全国英語教育学会(JASELE)平成24年度第2回理事会議事録

■日 時：平成24年8月3日（金）14:30 ～ 17:35

■場 所：ホテル・メルパルク名古屋 3階「ダリアの間」

■出席者：

瀬川俊一(会長)、松本達也(会長代行副会長・四国)、大里文人(副会長・九州)、卯城祐司(副会長・関甲信)、萬谷隆一(理事・北海道/北海道研究大会実行委員長)、鈴木智己(理事兼幹事・北海道)、佐久間康之(理事・東北)、野呂徳治(理事・東北)、松沢伸二(理事・関甲信)、杉浦正好(理事・中部/愛知研究大会実行委員長)、早瀬光秋(理事・中部)、村田純一(理事・関西)、横川博一(理事兼幹事・関西)、宮迫靖静(理事・中国)、伊東治己(理事・四国)、山内進(理事・九州)

<以下、オブザーバー>

金子淳(幹事・東北)、羽山恵(幹事・関甲信)、酒井英樹(幹事・中部)、竹野純一郎(幹事・中国)、山川満夫(幹事・九州)、小野真嗣(北海道研究大会事務局長)、野呂忠司(愛知研究大会事務局長)、大和隆介(紀要編集委員長・中部)、水野康一(紀要編集副委員長・四国)、玉井健(紀要編集副委員長・関西)、難波和彦(紀要編集事務局長・関西)、伊達正起(紀要編集事務局補佐・中部)、赤松信彦(会計監査)、廣森友人(事務局長)、岡良和(事務局会計担当)、清水裕子(事務局研究担当)、松本広幸(事務局研究担当)、田中洋也(事務局研究担当)、三浦省五(顧問)、板垣信哉(顧問)

会長挨拶、資料確認に続いて、下記の議題順に審議が行われた。

■議 題

1. 次期会長選挙 候補者選考について

瀬川会長より経緯説明。平成24年6月15日～6月29日に、第1回候補者選挙投票を実施。同7月8日に開票作業を実施。投票権を持つ理事18名、投票数14、有効投票数14。複数票を得た卯城祐司氏(11票)を会長候補者として推薦することを決定。理事会において、満場一致で了承。次期会長候補者、卯城氏より挨拶。

2. 事務局から総会に提起する議題について

①2012(平成24)年度 役員

②2011(平成23)年度 会務報告(廣森事務局長より)

③2011(平成23)年度 会計報告(")

3月の理事会以降、会員数の変更届けがあった地区があるため、収入の部の数値に変更あり。

④2011(平成 23)年度 会計監査報告(赤松会計監査より)

⑤2012(平成 24)年度 事業計画(廣森事務局長より)

⑥2012(平成 24)年度 予算案(")

40 周年記念誌積立金、言語系学会連合年会費、理事会参加に係る執行部の旅費補助を予算化することが提案され、了承。

⑦全国英語教育学会細則の一部改正について(")

上記⑥に関連して、第 3 章第 14 条の変更について提案された。

(旧) 理事に対して、年 1 回各地区 1 名分の旅費を支給するものとする。

(新) 春の第 1 回理事会に際して、会長、会長代行副会長、(理事を兼務しない副会長、)事務局長、および各地区 1 名分の旅費を支給するものとする。

会則内に()付の表現があることは好ましくないとの意見。共通理解が得られるような表現に訂正する必要があり、総会には以下の表現で提案することで了承。

「春の第 1 回理事会に際して、会長、副会長(理事を兼務するものを除く)、事務局長、および各地区 1 名分の旅費を支給するものとする。」

⑧次期会長候補者について(瀬川会長より)

⑨その他

3. 紀要 ARELE 24 号について(大和紀要編集委員長より)

第 1 回紀要編集委員会(本日 13 時～)の報告

・査読基準の変更案について編集委員会で討議がなされた。

(改訂案の骨子)査読の観点をもとに 5 項目に分類し、各 10 点満点で 4 水準の基準を設ける。また採択については別途基準(150 点満点中 105 点以上)を設ける。さらに、採択率等の採択基準、学会賞候補の選定についても事務局申し合わせ事項を設ける。

・編集委員会としては、微調整を要するが、基本的な方向性については賛同を得られた。今後、査読作業が開始されるまでに、事務局からの調整案を検討していく。

4. 全国英語教育学会 40 周年記念特別誌(仮称)について(卯城副会長より)

40 周年記念特別誌編集委員会(本日 12 時～)の報告

・委員長として齊田智里氏(横浜国立大学)、副委員長として合田美子氏(熊本大学)を選出。今後、委員会が執筆者の選定等を行い、作業を進めていく。

5. 学会申し合わせ事項(案)について(廣森事務局長より)

・春の第 1 回理事会出席に際し、各地区 1 名分に加え、会長、副会長(理事を兼務するものを除く)、および事務局長にも旅費を支給することが提案され、了承。

・他の事務局員、紀要編集委員長、会計監査、会員数の少ない地区学会への追加的補助については、学会の財政状況も勘案しながら、引き続き検討課題とする。

・卯城副会長より、今後、全国英語教育学会として財政面を強化していくようなシステムを検

討していく必要があるとの指摘がなされた。

6. 言語系学会連合への加盟について(廣森事務局長より)

- ・言語系学会連合については、加盟する方向で作業を進めたい旨の提案があり、最終的にこれを了承。

7. 第 39 回北海道研究大会について(萬谷実行委員長、小野大会事務局長より)

- ・大会概要についての説明があった。宿泊予約をする際の料金について、質疑がなされた。また、今後の検討課題として、大会における託児室の設置について提案があった。

8. 第 39 回北海道研究大会におけるシンポジウム及びワークショップについて

(田中事務局・研究担当より)

- ・シンポジウムおよびワークショップについて、事務局案の説明がなされた。
- ・共通のテーマとしては、「英語教育実践と研究の接点」を設定。意見として、「研究方法の精緻化も重要であるが、研究成果の現場への還元の方角性を強めるような配慮をお願いしたい」「中学等の現場の先生の実践の話が聞ける場があってもいいのではないか」「実践—研究のパラダイムを変えるような姿勢が必要」などがあつた。これらを踏まえ、執行部で最終的な案を示し、決定することとなつた。

9. その他

■報告事項：

1. 第 38 回愛知研究大会について(野呂愛知研究大会事務局長より)

- ・会場設備、講演会場の変更等、フォーラム欠席者等についての報告があつた。
- ・大会の発表者数は 221 件で、その内訳は、自由研究発表・事例報告 194 件、企業発表 6 件、ポスター発表 21 件であつた。協賛企業の展示申込みは 35 社あつた。事前参加申込み者数は 625 名で、その所属の内訳は、一般会員 401 名、学部生 10 名、大学院生 130 名、非会員 84 名とのことであつた。

2. 第 40 回四国地区担当研究大会について(伊東理事より)

- ・四国大会は「徳島研究大会」として、2014 年 8 月 9 日(土)、10 日(日)に徳島大学での実施を予定している。

3. その他(田中事務局(研究担当)より)

- ・フォーラム実施報告執筆および参加者の感想投稿用サイトについて説明と依頼があつた。

閉会にあたり、瀬川会長より2期4年間の在任中、役員各位のご支援により変革期にある本学会の半歩前進に寄与できたことへの謝辞と、今後の本学会の更なる発展を願っている旨の挨拶があった。

■配布資料：

資料1 出席者名簿

資料2 総会議題（案）

資料3 全国英語教育学会紀要執筆要領（ARELE 24号）（案）

資料4 全国英語教育学会40周年記念特別誌（仮称）について（案）

資料5 学会申し合わせ事項(案)について

資料6 言語系学会連合への加盟について

資料7 第39回北海道研究大会概要（案）

資料8 北海道研究大会のシンポジウム及びワークショップ事務局案について

資料9 各種フォーラムの実施報告について